

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016

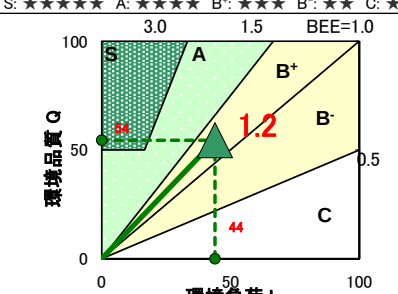
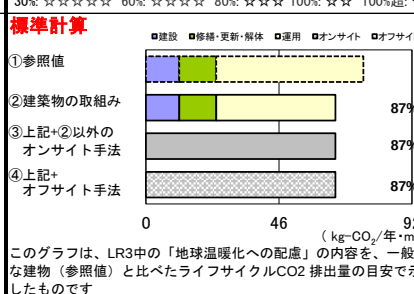
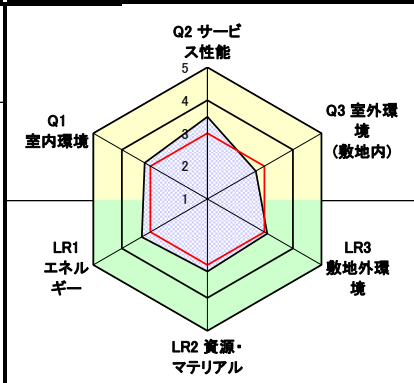
使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

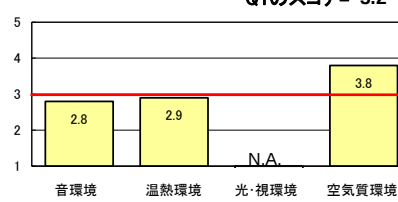
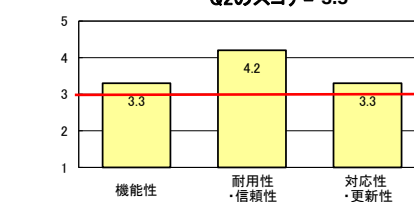
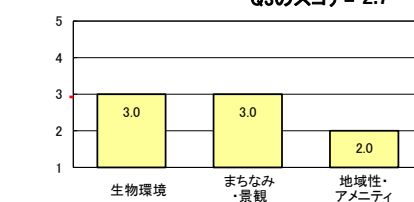
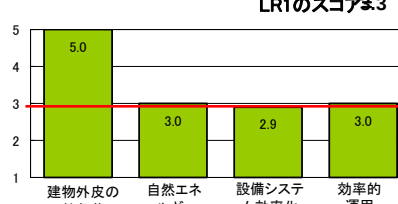
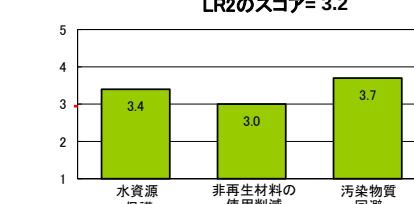
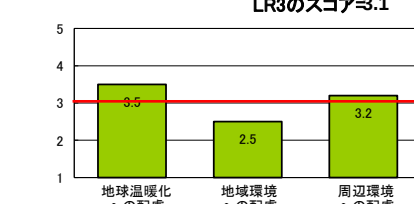
評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋四季劇場計画	階数	地上3F、地下1F
建設地	名古屋市熱田区三本松町101-20	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	900 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年4月 予定	評価の実施日	2025年1月14日
敷地面積	4,294 m ²	作成者	
建築面積	2,720 m ²	確認日	2025年1月31日
延床面積	4,926 m ²	確認者	

外観バース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.2 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の オンサイト手法 ④上記+ オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.2 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7 	Q のスコア= 3.1
LR 環境負荷低減性			
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.3 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1 	LR のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 ・名古屋市内熱田区に建設される劇場ビルである。		
その他		
Q1 室内環境 ・外皮性能の熱の侵入に対して、十分な配慮がなされており、最良の日射遮蔽性能および断熱性能を有している。 ・天井裏も含めてF☆☆☆☆の建築材料を使用し、室内空気質環境を良好に保つための配慮をしている。	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・維持管理のしやすい設計をし、各設備の機能維持に配慮をしている。	Q3 室外環境(敷地内) ・外構緑化指数が32.84%であり、緑の量の確保に努めている。 ・周辺へのまちなみ調和に配慮した景観計画をしている。
LR1 エネルギー ・BPI値が0.78であり、建物外皮の熱負荷を抑制している。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具を使用し、水資源保護に配慮している。 ・LGS地下やOAフロアを採用することで、部材の再利用性向上に取り組んでいる。	LR3 敷地外環境 ・適切な駐車スペースの確保や、渋滞緩和に配慮した計画により、交通負荷抑制に貢献している。 ・「光害対策ガイドライン」及び「広告物照明」のチェックリスト項目の過半を満たしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋四季劇場計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.3
	
2. 自然共生	評価点 = 2.6
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.1
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。